巻頭言

総合的に患者・生活者をみる姿勢

一般社団法人　日本総合歯科学会
理事長　長 谷 川 篤 司

令和４年11月に文部科学省から令和４年度改訂版の歯学教育モデル・コア・カリキュラムが発出されました。歯学では，前回改訂の平成28年度から６年ぶりの改訂となり，今回は医学・歯学・薬学の３つの教育モデル・コア・カリキュラムが同時に改訂されました。

改訂の基本理念（キャッチフレーズ）としては，医学・歯学・薬学教育の３つの領域で，「未来の社会や地域を見据え，多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」に統一されました。これは2040年以降の社会構造の変化（人口構造の変化，多疾患併存，多死社会，健康格差，増大する医療費，新興・再興感染症や災害リスク等）に起因する様々な問題を想定し，それら問題に対応できる医療者としての根幹となる資質・能力が「時代の変化や予測困難な事項に多職種と連携，協力しながら柔軟に対応し，生涯にわたって活躍できる」であることを念頭に置いてのことです。

そこで，新しいモデル・コア・カリキュラム（以降コアカリと略します）では，個々の学修項目に加えて，「歯科医師として求められる資質と能力」として10項目が明記されました。このうち，８項目は平成28年度改訂版コアカリのＡ項目に示されていた項目，あるいはこれを一部変更した項目ですが，「総合的に患者・生活者をみる姿勢」と「情報・科学技術を活かす能力」の２項目は新規に導入，設定された項目になります。この**「総合的に患者・生活者をみる姿勢」**の一般目標として「個人と社会のウェルビーイングを実現するために，患者・生活者の心理及び社会文化的背景や家族，地域社会との関係性を踏まえ，説明責任を果たしつつ，ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い，総合的に患者・生活者を支える歯科医療を提供していく。」と記載されており，具体的な行動目標として下表の５項目が挙げられています。

私はこれを見た時に，これら行動目標は「本学会がすでに実行してきた方向性と一致した，大変に見慣れた項目」であると感じました。

すなわち，少々追記しながら内容を解読してみると，「個人と社会のウェルビーイングを実現するためには，生活者の健康獲得とその維持が必要不可欠である。近年の疾患構造の変化により，歯科医師には生活習慣病の根本治療と予防が求められるようになった。生活習慣病の根本治療のためには，**患者中心の医療**に基づいて，①患者の問題を「疾患」と「病い」の両面から理解し，②患者・生活者の心理及び社会文化的背景や家族，地域社会との関係性を踏まえて全人的にとらえた上で，③問題解決の優先順位や到達すべき目標を設定し，医療者と患者の役割分担を認識した上で，患者と医療者の合意できる共通基盤の形成（治療方針の立案）が重要である。合意形成に至るためには，**根拠に基づいた医療**の手法を応用して治療法を検討することも重要であり，一方では，患者に「問題因子」となる環境の調整や認知行動療法に基づく**行動変容**を求めることを検討することも必要となる。これらを含めて**説明責任（インフォームドコンセント）**を果たすことで患者のアドヒアランスを獲得できれば，**患者とのコミュニケーション**に基づいた協働がスムースになる。さらに，ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域の診療を実施するにとどまらずに，**地域医療システムと連携**を取りながらこれに参画する。加えて，**予防と健康管理**の観点から未病段階の疾患のスクリーニングや健康増進のための診療を行うことで，患者の健康だけでなく，**医療経済の永続性**にも貢献しながら，総合的に患者・生活者を支える歯科医療を提供していくことが首記の実現のためには重要である。」と理解できるように思います。

表：総合的に患者・生活者をみる姿勢の行動目標

GE-01	歯科医師としての説明責任を果たし，インフォームド・コンセントを適切に得るために必要な能力を身に付ける。
GE-02	かかりつけ歯科医の職責を自覚し，地域の実情も視野に入れ，プライマリ・ケアを提供できる。
GE-03	患者・生活者の成長，発達，老化等のプロセスを踏まえ，適切に患者の診療にあたることができる。
GE-04	患者の抱える多疾患や心理・社会的観点も踏まえ，患者にとって最善の臨床実践に関与できる。
GE-05	歯科医療にとどまらず，患者・生活者の社会文化的背景を理解した上で，他職種や他業種との多職種連携を実践できる。

以下，多分に私見ですが，このような内容は，本学会が得意とする領域であり，今後，卒前学生への教育を担当するとともに，卒後にも引き継いで，より高度な段階の総合診療歯科医のための「生涯にわたる医療知識，医療技能の教育支援システム」を準備できるのではないかと考えています。あわせて，(1) コミュニケーション，(2) 患者中心の医療（全人的医療），(3) 根拠に基づいた医療，(4) 臨床推論，(5) 予防と健康管理などをキーワードとした研究がますます推進される事を期待せずにはいられません。